

より良く生きる ―出居清太郎先生の世界― 第13回

山本博也

(1) 自分に向かって言われたことでもなくても

目に映り、耳に聞こえてくることは、すべて教科書として学び修めていかれるようにと言うて、常日頃皆さんに教えております。あの人が言われているんだ、私が言われているんじゃないんだというように思わず、自分の学ぶべき、行うべきことを教えてくださるんだなと受け止めてください。

自分の方に向かって言わなくとも、向

こうに向いて言うていても、その言葉を耳で聞かせていただく、また人の言動を目で見るということは、そういうようにしていきなさいということをお自分に教えてください。それが大事です。

(2) 天に口なし、人をもつて言わしむ

昔から、

――天に口なし、人をもつて言わしむと言われております。神様は人の口をもつて戒め、人の姿や万物をもつて善悪を教えられているのであります。それが証拠に「神」という文字は、「示し申す」と書きます。神様は示しておいて、わかるよ

うに、早く気が付くようにしてください。飛行機は、厚い雲の中でも、自分を誘導してくれる電波をキャッチして、その電波に導かれることによつて、方向を誤ることなく、目的地に飛んでいきます。

(出居清太郎先生の言葉から)

12月24日の夜、赤い帽子に赤い服のサンタクロースが、トナカイに引かれたソリに乗ってやってきて、寝ている子どもたちの枕元にプレゼントを置いていく。あくる朝目覚めた子どもたちが枕元の包みに気づき、目をかがやかせて包みをとき、出てきたおもちゃを持って親のところにとんでいく。「サンタさんにもらったよ!」「そう、よかったね。」

——ほのぼのとした平和な光景です。

大喜びしたその子どもたちが、やがて親に問いかけてきます。

「サンタクロースってほんとにいるの?」
そのうち気づきます。

① 「サンタ」(赤い帽子、赤い服)は
いない。

② 「サンタ」は親だ。

さらに、成長していく中で気づきます。

③ 親は【サンタ】(自分を愛し、導いて
くれる)だ。

④ 親の他にも【サンタ】がいる。

こうして人は、大人になり、社会人になつていきます。

「何をしてもうまくいかない、災難ばかりだ」と嘆いて、人は言います、

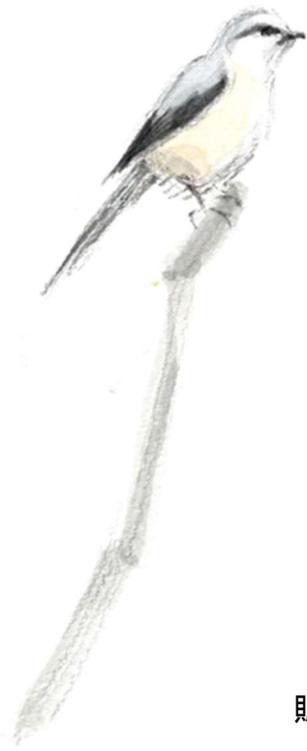
① 「神」(なくなった指をはやし、宝くじを当ててくれる) はいない。

出居清太郎先生と教えに出会って救われた人は言います。

② 先生と教えが【神】(生きる力と指針を与えてくれる) だった。

そして先生の足跡と教えを学び、実践する中でだんだんと気づいていきます。

③ 目にし、耳にすることのすべてが【神】だ。



鴉 大西 恵

先生は、「ほめられたら反省、叱られたら感謝」とも教えられました。

こんなこともあるかも知れません。

ある事業所の一室。たまたま所長とAさんが2人だけでいました。そこへBさんが入って来て、所長に報告をして出て行きました。そのあと所長が独り言のよう、「Bさんはよくやってくれているんだが、もうちょっと積極的になってくれたらなあ」と言いました。その声を聞いたAさん、自分ももっと積極的にならないといけないと思いました。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな」は、謙虚さが大事だという教えとしてよく知られています。

以上のように、私たちは人の言動や自

然の姿から教訓を学びとることができ
 ことは確かだと思えます。

ところでさきほどのAさん、所長さん
 の言葉を聞いて、「自分ももっと積極的
 にならないといけないと思」ったとい
 うことですが、それはAさんの中に、「積
 極性が大事」という価値観がもとも
 とあつたから、そう思つたのではない
 でしょうか。稲穂の話も、「謙虚さが
 大事」という思いがもともとあつて、
 稲穂を見てそれを思い出したとい
 うのが実情なのではないでしょうか。

つまり、人の言動や自然の姿から
 教訓を学びとると言いますが、それ
 は、人の言動や自然の姿を見て、自
 分が大事だと思つていること、自
 分の価値観を思い出

すということであり、そのためには、
 何が大事なのか、ということが正しい
 のかについての思いを自分の中にし
 っかり持っている必要があるのでは
 ないでしょうか。自分のもつていな
 いものを発見することは難しいこと
 でしょう。

出居清太郎先生は私たちに、どこ
 に世界の真実はあるのか、何が人
 の世の実相なのか、正しい心の持
 ち方使い方は？ 誠を捧げるとは？
 といったことについて、繰り返し、
 いろんな方面から教えてくださつ
 ています。その先生の教えを私た
 ちは、自分の置かれた境遇の中で、
 生活の場面場面で、状況に応じて
 思い出すことが大事だろうと思
 います。